教育かわら版

こんにちは教育委員会です

ふたたび

No.１６７
令和４年５月１１日発行
今金町教育委員会の会
文責：教育長　中山秀悦



良い季節です





家々の花壇に花が咲き始めています。連休も終わって、いつもの日常が戻ってきました。

連休明けの月曜日。小学校の社会科（消防等）見学で、事務室下の駐車場にうちのバスが二台止まっています。子どもたちの質問の声、規律正しい授業の姿。引率の先生方の穏やかな指示。かわいらしいお礼の言葉。良いですねえ。

今日は天気も良いけれど、授業のタイミングとしては最高ですね。連休にお出かけできた子は知識の吸収力も高まっているだろうし、疲れ気味で学校への気持ちが渋っていた子には、こういう校外学習は楽しみで、登校意欲も沸くことでしょう。



ゴールデンウイークは自分も少し出かけてきました。昔の連休の混雑を覚えている者にとってはまだちょっと寂しいかなという人手でしたが、これから増えていけば観光地も活性化するだろうな、と期待する気持ちで戻ってきました。

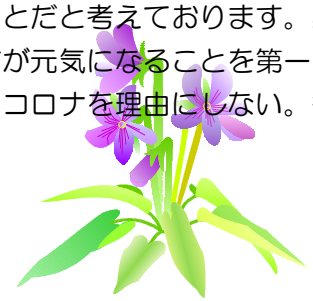
さあ、また仕事の再開です。

世間ではコロナ禍によって対面での活動が減ってきました。ヨーロッパ情勢では歯止めの意識はいつ強まるのだろうかという思いが募ります。それに加えて働き方に関する意識。

どうせできないから、計画がいい加減に。書面会議の文書に細かく目は通さない。次へ繋がるという意識の欠如から検証作業がおざなりに。自分たちの仕事はそれらを潔しとはしません。

要は子どもたちが、町民の方々が、いかに喜んで充実した時間を過ごすことができるかということだと考えております。必要なことはやるということ。皆さんが明るく元気になれることを、町が元気になることを第一に考えて･･･。

コロナを理由にしない。後悔しないように、日々納得できる判断をして。それだけです。



現在、広島県教育委員会教育長をされている　平川理恵　氏が以前に雑誌に書かれた文章が印象に残ります。

〇現在、民間人校長として着任し、４年目になる。
　正直、校長になるまで、こんなにも学校の教職員が子どもたち一人ひとりのことを考え、細やかに寄り添って指導しているとは、夢にも思っていなかった。
　民間の仕事も大変かもしれないが、教員という仕事は違う次元でものすごく大変だ。
　そもそも、民間と教育公務員は、やりがいとモチベーションが違うのだ。民間は、業績を上げてなんぼのものだ。我の成長を優先する。しかし、先生の仕事は、我の成長より、子どもの成長なのだ。
横浜市立市ヶ尾中学校長　平川理恵

私どもも頑張ります。